

県民意識調査から見る新ビジョン検討の方向性

趣 旨

- ・ 2001 年度に策定した「21 世紀兵庫長期ビジョン」の推進過程では、社会統計や事業量評価では測りきれない、生活の質や豊かさを明らかにする主観指標を設定し、現行ビジョンの推進状況の評価への活用を図ってきた。
- ・ こうした県民の価値観を把握することは、新ビジョンに示すべきテーマや地域づくりの方向性を明確化するためにも有意義であることから、このたび過去 18 年間の調査結果を改めて俯瞰し、県民意識の全体像や地域ごとの傾向の評価を試みた。
- ・ なお、今回の分析は、質問文の変遷など様々な制約のもと、新たな地域づくりの議論の糸口として活用することに主眼を置いて行った。できる限り諸条件を考慮した分析を行っているが、厳密な有意性を保証するものではない。

県民意識調査の概要

- (1) 対 象 者 : 県内に居住する満 20 歳以上の男女個人
(毎年 5000 人・各市町の住民基本台帳をもとに無作為抽出)
- (2) 標本配分 : 10 県民局・センターの地域ごとに 500 の標本数を市町別・男女別・年齢 10 歳階級別の母集団構成比に応じて配分
- (3) 調査期間 : 2002 年度～2019 年度 (年 1 回・18 年間)
[
 - ・ 質問項目については、変更を最小限とすることを基本としながらも、ビジョンの改定や社会潮流に合わせて、追加・削除・文言修正を加えている]
- (4) 質問項目 : 右表のとおり 55 項目 (5 段階の選択肢。数値が高いほどポジティブな回答)
 [選択肢例: 5 そう思う 4 まあそう思う 3 どちらとも言えない 2 あまりそう思わない 1 そう思わない]

構 成

- ◆ 将来像別の経年分析..... P. 4
- ◆ 地域別レーダーチャート..... P. 14
- ◆ まとめ..... P. 16

【別冊：参考資料】 ※ 添付省略HP参照 (<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk07/visionresearch.html>)

	資料名	概 要
1	調査票	・ 県民に送付している様式
2	経年グラフ ① 全県 ② 地域別 ③ 男女別 ④ 世代別	・ 各設問の年度ごとの平均点を経年で集計 ・ 2002 から直近のデータを対象としているが、途中で新設、一時的に廃止しているものも含めて分析 (直近で廃止されている設問は除く) ・ 文言修正があった場合も、ある程度同一の質問として許容し、評価の時点で修正内容を考慮して分析
3	地図グラフ	・ 各設問の直近 3 年間 (2017～2019) のデータを抽出し、地域別に平均点を集計 ・ 地域の差を分かりやすくするため、色のグラデーションの設定を設問毎に設定
4	質問変遷一覧	・ 各設問の文言の変遷を記載

【県民意識調査の設問項目】

	4つの 将来像等	12の めざす姿等	設 問		
1	全体評価	総合的生活満足度	あなたは、全体として、将来の生活に不安を感じますか。		
2			あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいですか。		
3			あなたは、全体として、今の生活に満足していますか。		
4	創造的市 民社会	人と人のつながりで 自立と安心を育む	あなたには、頼りになる知り合いが近所にいますか。		
5			住んでいる地域で、異なる世代の人とつきあいがありますか。		
6			住んでいる地域は、治安が良く、安心して暮らせると感じますか。		
7			住んでいる地域では、住民による登下校時の見守り、夜間パトロールや街灯整備などの安全安心を守る取組が行われていると感じますか。		
8			あなたは、家族とのコミュニケーションがとれていますか。電話などを含み、家族との同居・別居を問いません。		
9			不当な差別がない社会だと感じますか。		
10			住んでいる地域は、高齢者にも暮らしやすいと感じますか。		
11			住んでいる地域は、障害のある人にも暮らしやすいと感じますか。		
12			あなたは、心身ともに健康であると感じますか。		
13			あなたには、かかりつけの医師がいますか。		
14	兵庫らしい健康で充 実した生涯を送れる 社会を実現する	お住まいの市・町では、芸術文化に接する機会があると感じますか。	あなたは、ボランティアなどで社会のために活動していますか、またはしてみたいですか。		
15			あなたには、目的を持って学んでいるものがありますか。		
16			住んでいる地域では、心の豊かさを育む教育や活動が行われていると感じますか。		
17			若者が希望を持てる社会だと感じますか。		
18	次代を支え挑戦する 人を創る	住んでいる地域の子どもは、伸び伸びと育っていると感じますか。	住んでいる地域では、子育てがしやすいと感じますか。		
19			住んでいる地域の子どもは、伸び伸びと育っていると感じますか。		
20			住んでいる地域では、子育てがしやすいと感じますか。		
21			お住まいの市・町には、優れた製品・技術・ブランド力をもった企業があることを知っていますか。		
22	しごとと活 性社会	未来を拓く産業の力 を高める	お住まいの市・町の企業には活気が感じられると感じますか。		
23			商売、事業を新たに始めやすい環境になっていると感じますか。		
24			あなたは、地元や県内でとれた農林水産物を買っていますか。		
25			お住まいの市・町では、観光などの訪問客が増えていると感じますか。		
26			地元や県内でとれた農林水産物は安心だと感じますか。		
27			地元や県内の農林水産業に、活気が感じられると感じますか。		
28			お住まいの市・町の駅前や商店街に、活気が感じられると感じますか。		
29			お住まいの市・町では、生活の不便さを補うサービス産業が増えていると感じますか。		
30			生きがいにあふれた しごとを創る	あなたは、自分のしごとにやりがいを感じますか。	あなたは、しごとと自分の生活の両立ができていますか。
31					自分にあった職業への就職や転職がしやすい社会だと感じますか。
32	年齢や性別を問わず、働きやすい環境が整っていると感じますか。				
33	年齢や性別を問わず、働きやすい環境が整っていると感じますか。				
34	環境優先 社会	人と自然が共生する 地域を創る	お住まいの市・町の自然環境は守られていると感じますか。		
35			お住まいの市・町では、自然の生き物動物・植物とふれあう機会があると感じますか。		
36			あなたは、山林や川、海などの自然環境を守るための取組に参加していますか、または参加したいと感じますか。		
37			あなたは、ごみの分別リサイクルに取り組んでいますか。		
38			あなたは、日頃から節電に取り組んでいますか。		
39			あなたは、製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んで買っていますか。		
40			あなたは、太陽光発電など「再生可能エネルギー」を利用する取組に参加していますか、または参加したいと感じますか。		
41			あなたは、災害時の避難所と避難方法を知っていますか。		
42	住んでいる地域の、災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると感じますか。				
43	多彩な交 流社会	地域の交流・持続を 支える基盤を整える	あなたは、家庭で災害に対する自主的な備えをしていますか。		
44			あなたは、住んでいる地域で災害に備えた話し合いや訓練に参加していますか。		
45			住んでいる地域は、買い物や通院に便利であると感じますか。		
46	個性を生かした地域 の自立と地域間連携 で元気を生み出す	世界との交流を兵庫 の未来へ結ぶ	住んでいる地域のまち並みはきれいだと感じますか。		
47			お住まいの市・町は、県内のどこへでも便利に移動できますか。		
48			お住まいの市・町の公共交通は便利であると感じますか。		
49			あなたは、住んでいる地域に愛着や誇りを感じますか。		
50	あなたは、住んでいる地域のことに関心がありますか。				
51	あなたは、住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加していますか、または参加したいと感じますか。				
52	お住まいの市・町には、自慢したい地域の「宝」風景や産物、文化などがありますか。				
53	あなたは、外国人を見かけたり、外国人と接したりする機会が増えていると感じますか。				
54	あなたは、海外に出かけたり、海外での生活を体験したりしてみたいですか。				
55	お住まいの市・町は、外国人にも住みやすくなっていると感じますか。				

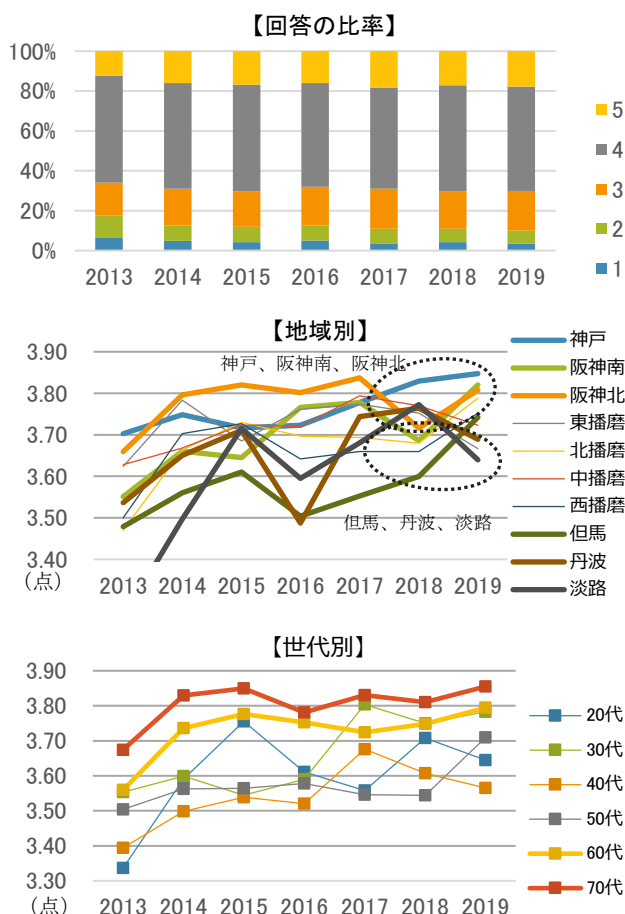
総合的満足度

◆ 県民意識の傾向

- ・現在の生活や住んでいる地域など、身近な暮らしを問うものにはポジティブな回答が、社会情勢などを連想させる将来の暮らしへの問いにはネガティブな回答が多く、真逆の傾向が表れた。
- ・一般的には、長期の景気低迷など社会環境のマイナス面が強調されがちであるが、今の暮らしそのものや、より根源的な内心の部分での生活満足度という意味では、一定の水準が確保されていると言えるのではないかと。
- ・とりわけ「住んでいる地域に住み続けたいか」との設問には、約40%が最高点をつけるなど特徴的な結果が表れた。人口減少の格差に比べて地域間の差も小さく、内心で住み続けたいという思いと、実際に住み続けるかどうかの間に大きなギャップあることが窺える。
- ・一方で、客観的に自分の将来を考えたときに、大きな不安を抱えていることが分かる。仕事、結婚、子育て・教育、介護、セカンドライフなどのライフステージに対応して、安心やビジョンを示すことの重要性を示唆しているのではないかと。

生活の満足度 「全体として、今の生活に満足しているか」

- ・全県では、3.5～3.8点程度と、比較的高い値を保って推移している。
- ・選択肢別のウエイトを見ても、「5満足」が約20%、「4まあ満足」が約50%とポジティブな回答で約70%を占めており、社会への何らかの不満や不安などを抱えながらも、個人個人の日々の生活といった視点では、多くの県民が一定の満足感を得ていることが窺える。
- ・経年では、緩やかな上昇も見られるものの、ほぼ横ばいと言える。
- ・地域別では、上下位の差は毎年約0.2～0.3ポイント程度。順位の変動はあるものの、傾向としては神戸・阪神南・阪神北などの都市部の方が、但馬、丹波、淡路などの地方部よりも比較的高い。
- ・世代別では上下位の差は毎年0.3ポイント程度。60代、70代は一定して上位にいますが50代以下は年によって変動している。

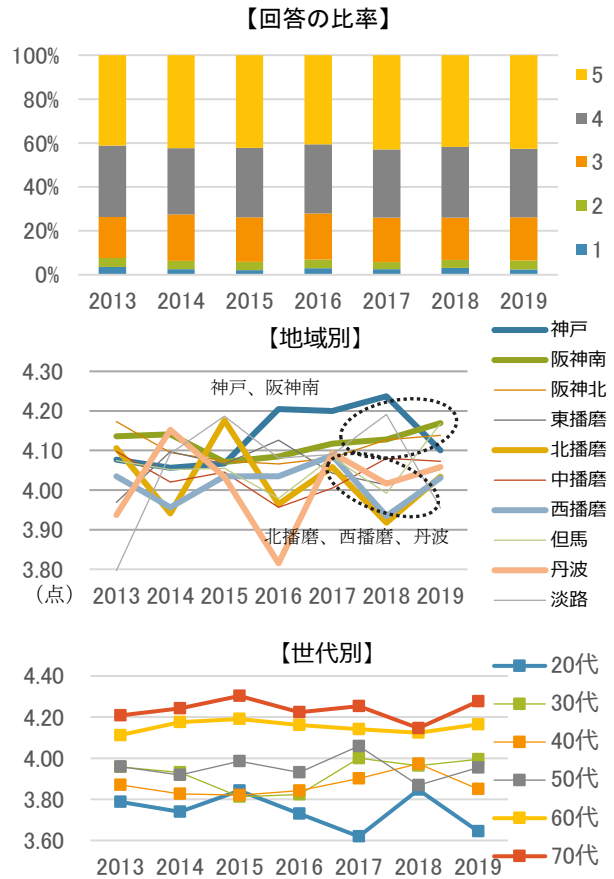


地域の満足度 「住んでいる地域にこれからも住み続けたいか」

- ・全県では4.0～4.1点と高い値で推移している。選択肢のウエイトを見ても「5住み続けたい」「4まあ住み続けたい」を合わせて約70%を占めている。また、「5住み続けたい」だけを見て

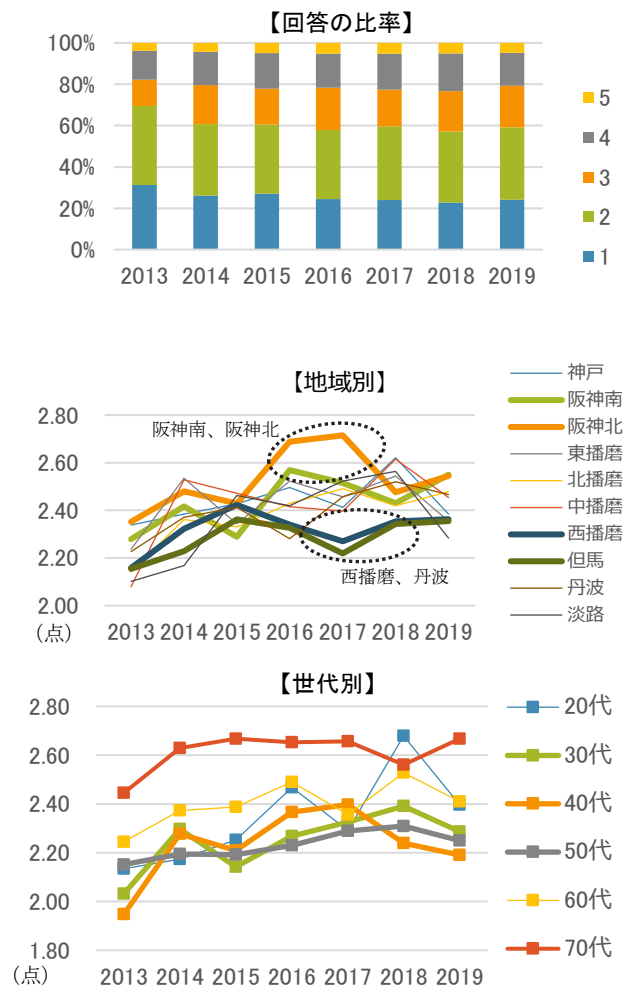
も約40%と上述の「生活満足度」を問う設問よりも更にポジティブな回答が多いことも特徴である。

- 地域別では、上下位の差は0.2~0.3ポイント程度。神戸・阪神南が比較的高い値を、北播磨、西播磨・丹波が低い値となる傾向も見られるものの、毎年順位変動も激しく、地方部での人口減少の程度に比べて、都市部と地方部で、それほど大きな差が生まれていないとも言えるのではないか。
- 世代別に見ると上下位の差は0.4~0.6ポイントと比較的大きい。70代、60代が4.1~4.2点と特に高い値を示しているのに対して、20代は3.6~3.8点程度と相対的に低い値に止まる。高齢世代が住み慣れた地域で住み続けたいと思う一方で、若い世代は東京志向であったり、利便性の高い地域への移転志向が影響しているものと考えられる。



将来への不安 「全体として、将来の生活に不安を感じるか」

- 全県では、雇用環境の改善等により緩やかな上昇傾向が見られるものの、2.2~2.4点程度で推移しており、他の総合的設問とは対照的に低い値が示されている。回答のウエイトを見ても「1 不安を感じる」が約25%、「2 やや不安を感じる」が約35%と ネガティブな回答で約60%を占めている。
- これまでの経済の低迷や所得格差の拡大、雇用制度の変革や社会保障制度への不安など、社会への閉塞感や中長期的な視点で自らの人生を見通せないという意識が表れているものと考えられる。
- 地域別には、上下位の差は約0.2~0.4ポイント程度。順位の変動が激しく、一概には言えないが、阪神南・阪神北などが上位を占め、西播磨・但馬などが下位となっている。
- 世代別では、上下位の差は約0.4~0.5ポイント程度と大きいですが、退職世代の70代を除けば、その差は大きくない。強いて言えば、20代よりも、30代、40代、50代が低く、老後や介護など、現実的な生活への不安が覗える。



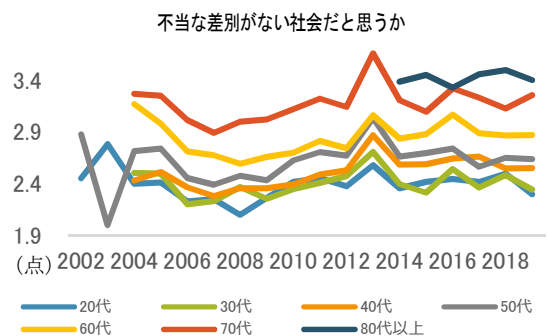
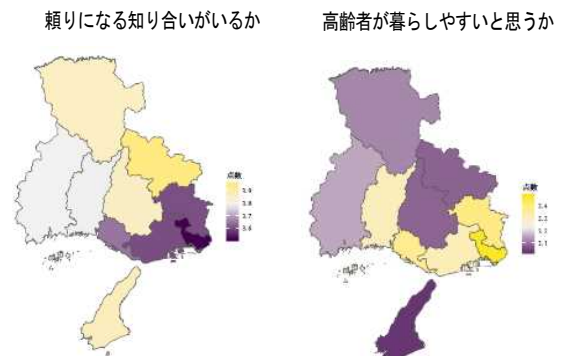
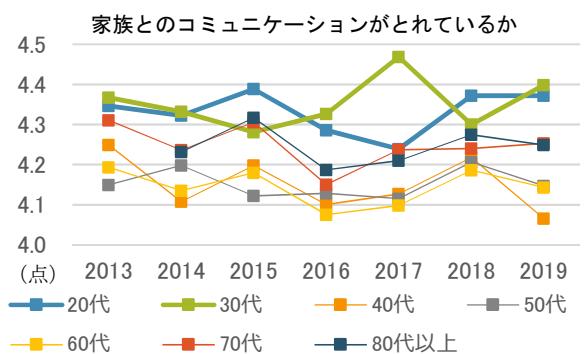
I 創造的市民社会

◆ 県民意識の傾向

- ・核家族化や個人の価値観の多様化など、家庭や暮らしの単位がより「個化」するなか、多くの県民が「家族とのコミュニケーションがとれている」と評価している。精神面での繋がり維持と、物理的な面での支えを如何にカバーできるか、新たな家族や地域の形を考える必要がある。
- ・目的を持った学びの実行については、都市部と地方部の格差が表れた。変化の激しい社会の中で「学び」の機会を充実させていくことは地域の魅力にも繋がるのではないかと。
- ・「子育てのしやすさ」は都市部が、「子どもが伸び伸び育っているか」は地方部が高い評価。どちらの評価も高い地域をつくるのが大きな課題と言える。

将来像1 人と人のつながりで自立と安心を育む

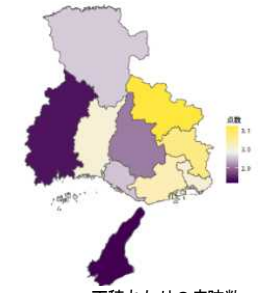
- ・「家族間でのコミュニケーション」についての評価は、全県で4.15~4.25と一貫して高い水準を維持している。
- ・年代別には、子育て世代である20代、30代の点数が相対的に高い。
- ・一方で、40代以上の年代でも一定の高い値を保っている。この設問は、同居・別居を含めて聞いており、頻度や時間は別として、子どもが独立してもなお、よくコミュニケーションを取っている人が多いとも評価できるのではないかと。また、1日あたりの家族との会話時間を問う設問（フェーズシート）では、約120分~140分と参考値（回答した人の平均）ながら高い値が表れている。
- ・地域で「頼りになる知り合いがいるか」「異なる世代との付き合いがあるか」を問う設問は、3.3~3.8と低くはないが家族の設問には及ばない。但馬・丹波などの地方部の方が高い傾向にあり、都市での地域の繋がり希薄さが表れている。
- ・一方で「高齢者の暮らしやすさ」を問う質問は都市部の方が高い。高齢になるにつれ、身体的機能の低下により広域な生活圏で暮らすことが難しくなることから、公共交通が発達する都市部の便利さが魅力に繋がる。地方部での生活利便性の確保は大きな課題である。
- ・「不当な差別がない社会だと思うか」では、若い世代ほど差別があると答えている。「若者が希望を持てる社会か」（将来像3）における若い世代の低評価と通じるものがある。若者の自由な発想や活動が生かされにくい社会の一面を窺わせる。新しい価値観や変化に寛容な社会をどう創っていくかが重要な課題である。



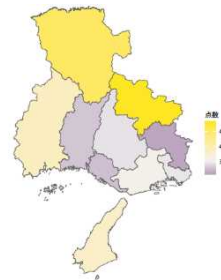
将来像2 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する

- ・「目的を持った学びをしているか」を問う設問については、2.8～3.0程度で推移し若干の増加傾向が見られる。地域別には、神戸、阪神南、阪神北などの都市部に加えて、丹波が高い値を示している。丹波については、文化・気性によるものか物理的な要因によるものか明らかではないが、少なくとも神戸・阪神間の都市部が他の地域よりも「学び」の機会に恵まれていることは明らかであり、全県的な底上げと、意欲があっても学べない（「学び」の場が少ない）地域の解消は大きな課題である。
- ・「地域にかかりつけ医がいるか」を問う設問では、都市部に比べて地方部が高い。地方部では医療面だけでなく地域のつながりを支える拠点として、まちの診療期間が機能していると評価できる。一方、地域面積に対する一定規模の病院数を比較すると、都市部に比べて地方部が少なく、入院可能な医療施設が相対的に少ないことを示している。地方部での医療充実を図っていく際には、まちの身近な診療機能の維持と併せて、総合医療機関との連携を考えていく必要がある。

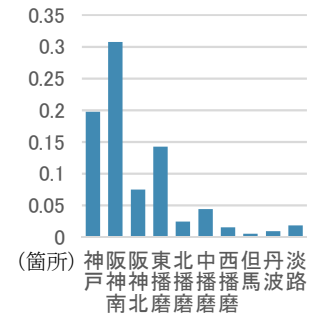
目的を持った学びをしているか



地域にかかりつけ医がいるか



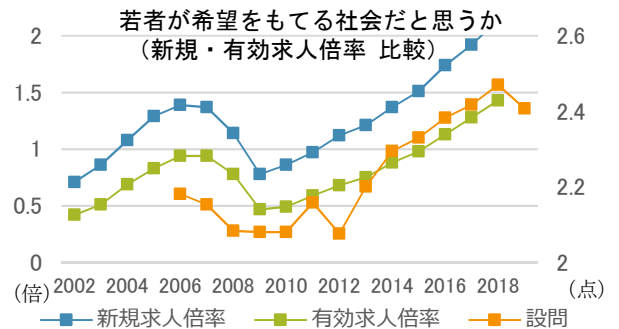
面積あたりの病院数



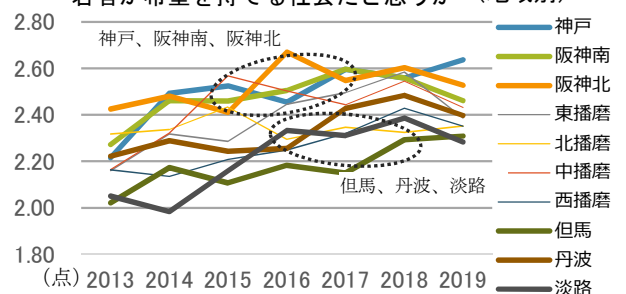
※ 病院：病床20床以上の入院施設をもつ機関

将来像3 次代を支え挑戦する人を創る

- ・「若者が希望を持てる社会か」を問う設問は、2.2～2.4と低い値であるが緩やかに改善している。近年の雇用情勢の改善との深い関連性が確認できる。
- ・地域別にみると、地方部が低く、若者の大都市志向や都市部での暮らしや働き方など選択肢の多さが影響しているものと見られる。
- ・「子育てのしやすさ」は都市部が高く、地方部が低い。都市部の方が、アクセスの良い場所に子どもを預けられる環境が整っており、送り迎えがしやすいことが起因すると考えられる。また、塾や習い事が充実しており、教育の選択肢が広がっていることも要因として考えられる。
- ・一方で「心の豊かさを育む教育が行われているか」「地域の子どもが伸び伸び育っているか」は地方部が高い。塾や習い事など毎日を忙しく過ごす都市部の子どもに対比して、自然や地域のなかで育つ子どもの姿を表しているものと考えられる。また、地域との関わりの中では、勉強だけでは学べない、心の豊かさや多様な経験を積み育むことができる。高度な学習が求められる一方で、こうした心を育む教育をいかに組み合わせるかを考えていかなければならない。

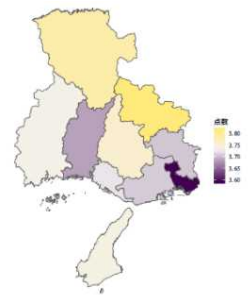
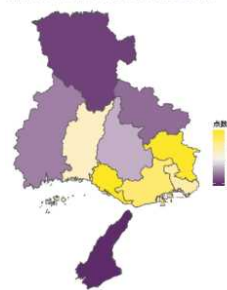


若者が希望を持てる社会だと思うか (地域別)



子育てがしやすいか

子どもはのびのびと育っているか



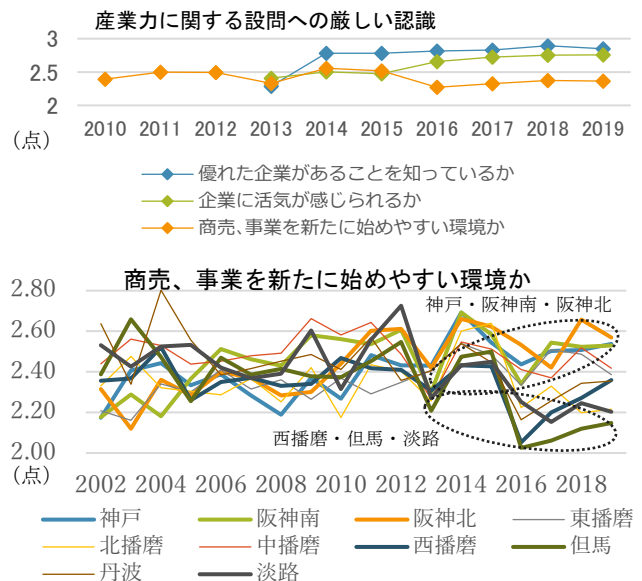
II しごとと活性社会

◆ 県民意識の傾向

- ・産業・雇用の活力を問う設問では、一貫して低い値で推移しており、経済指標の数値以上に県民が厳しい実感を持っていることが示されている。
- ・また、多くの項目において都市部と地方部の格差が表れている。モビリティや通信技術が大きく発展するなかで、地方部でどのような産業を展開していくのか、新たな方向性を見いだしていかなければならない。
- ・起業・創業に対して県民が大きな壁を感じていることも示された。経済活性化だけでなく、自己実現や自分時間の充実の観点からも、起業環境の充実が必要である。

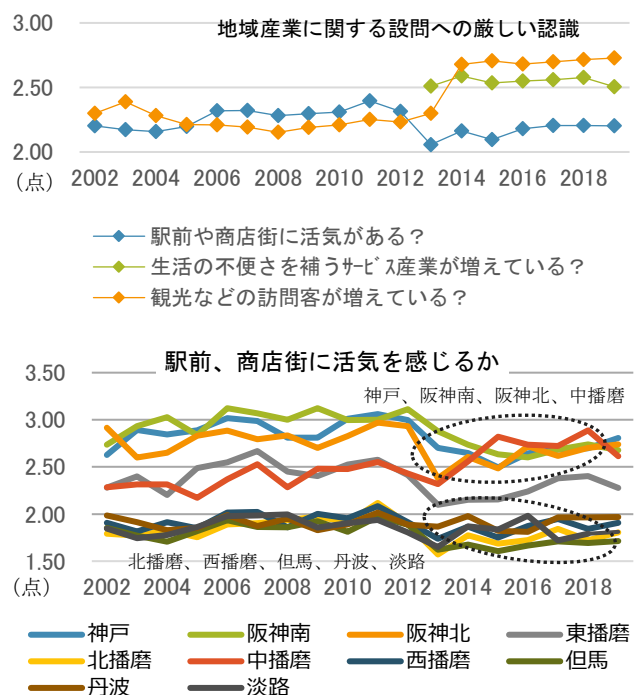
将来像4 未来を拓く産業の力を高める

- ・各問の全県の平均点は2.41～2.75と低い。特に「商売・事業の始めやすさ」を問う設問については、全県最低点が2.27、最高点でも2.56と2002年以来、一貫して低い評価で推移している。産業の分野であるが、景気動向に関わらず厳しい認識が示されており、起業・創業のハードルの高さが覗える。
- ・同問を地域別に見ると、大きな差はないものの、神戸、阪神南、阪神北は改善傾向、西播磨、但馬、淡路は悪化傾向にあるなど、都市部と地方部との差が広がっている。



将来像5 地域とともに持続する産業を育む

- ・各問の平均点にばらつきが見られるが、商業や観光に関する問いでは2.23～2.55と低い。
- ・特に「駅前や商店街に活気が感じられるか」の問いは全県の平均点が2.23と最も低く、地域別では、神戸、阪神南、阪神北、中播磨と、北播磨、西播磨、但馬、丹波、淡路の差は1ポイント近く開いており地域間の格差が見て取れる。
- ・一般論として、地域の活力は、住む人の誇りや誇りにも繋がる。今後、モビリティや通信技術が大きく発展するなかで、地方部でどのような産業を展開していくのか、新たな方向性を見いだしていかなければならない。

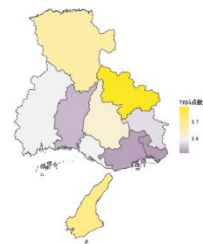
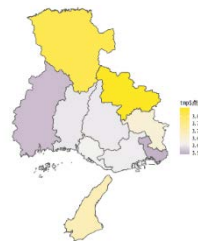


将来像6 生きがいにあふれたしごとを創る

- ・しごとに関する4つの問いについて、高低が二極化している。
- ・「しごとにへのやりがい」「しごとと自分の生活との両立」など、自らの働き方を問う設問では平均点が3.61～3.66と比較的悪くない評価が示されている。また、その差は小さいものの、全体をとおして都市部よりも、丹波、但馬などの地方部の方が点数が高い。地方部は都市部に比べて、被雇用者（役員除く）の割合が比較的low、自営業主等の割合が高いことが、やりがいなどの一つの要因ではないかとも考えられる。
- ・一方で「自分にあつた職業への就職や転職のしやすさ」「年齢・性別を問わず、働きやすい環境が整っているか」を問う設問は、平均2.01～2.25と非常に低く、客観的に見た雇用環境や子育て支援等に厳しい認識が示されているものと考えられる。



しごとにやりがいを感じるか しごとと生活の両立ができているか



就業者に占める自営業主の比率

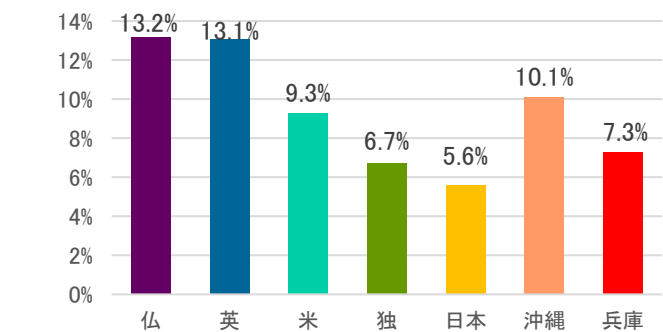
出典：就業構造基本調査（総務省・H29）

	神戸	阪神南	但馬・丹波	淡路
自営業主	3.2%	3.7%	6.6%	8.4%
被雇用者・役員除く	43.9%	43.0%	39.2%	37.1%

起業・創業環境

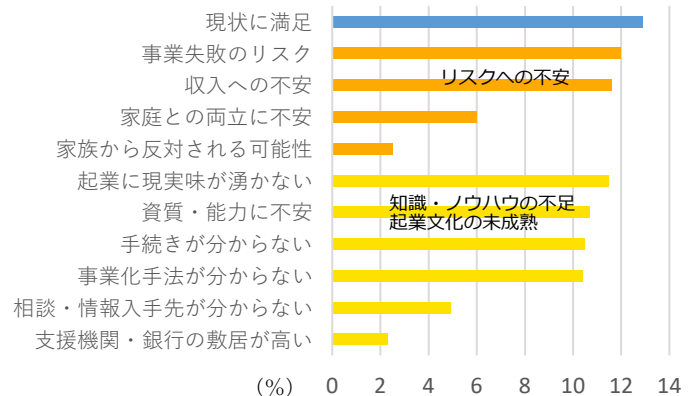
- ・将来像4では「事業の始めやすさ」への厳しい認識が示された一方で、将来像6では、働き方とやりがいとの関連性も視えた。
- ・もちろん、被雇用者であっても、やりがいの高い働き方ができることは言うまでもないが、起業を促進することが、経済活性化だけでなく、県民の自己実現や自分時間の充実にも有効であることは、一般論としても言えることである。世界と比べて水準の低い起業の活性化が、新しいビジョンをつくる上でも重要なテーマになるのではないか。
- ・国の調査によると、失敗のリスクを取れないことや、起業に関する知識不足といった要因が起業のハードルを上げている。兼業・副業など柔軟な働き方の拡大とともに、学校教育からリカレント教育まで、起業教育の充実、起業文化の醸成が求められる。

世界各国の開業率



出典 中小企業庁「中小企業白書」（2019）
開業率は米国・ドイツを除き、2017年実績

潜在起業希望者が準備に踏み切らない理由



出典 中小企業庁「日本の起業環境及び潜在的起業家に関する調査」（2013）
※ 潜在的起業希望者について集計。1位から3位の回答を求め1位を集計し、その他は表示していない。

Ⅲ 環境優先社会

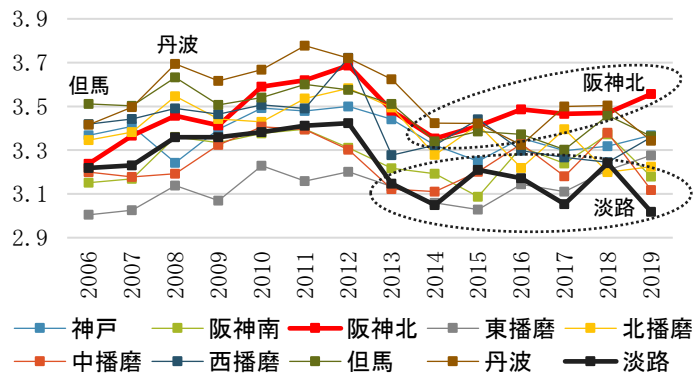
◆ 県民意識の傾向

- ・地域の自然環境が守られているかの設問では、低い値ではないものの、緩やかな低下傾向が見られる。森林や海洋、都市や多自然地域など地域によっても課題が異なるなか、自然環境がどう変化しているかを把握し、何が求められるのか見極めていく必要がある。
- ・再生可能エネルギーの利用は進んでいない。グリーンボンドへの投資をはじめ一人ひとりが出来る取組を進めていかなければならない。
- ・県民の防災意識は年々上昇している一方で、地域別では地方部に比べて都市部の意識が相対的に低く、全県的な底上げの必要性が見て取れる。

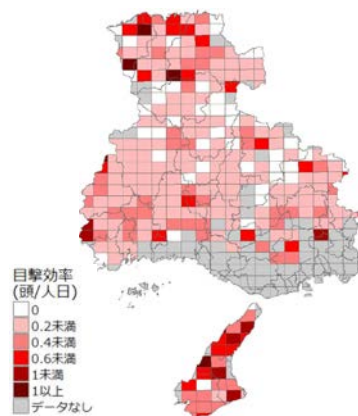
将来像 7 人と自然が共生する地域を創る

- ・各問の全県の平均点は 3 点台で推移している。近年、やや低下傾向にある。
- ・「自然環境が守られているか」は、2012 年の 3.5 をピークにその後やや低下し、近年は 3 点台前半で、ほぼ横ばいで推移。
- ・地域別にみると、丹波、但馬など多自然地域の点数が高く、また 2010 年以降、阪神北が上位にある。北摂地域の里山保全活動の広がりなどの効果が考えられる。
- ・一方、淡路は 2013 年以降低迷している。放置竹林の増加、野生鳥獣による被害、メガソーラーの設置など、複合的な要因が考えられる。

地域の自然環境は守られているか



イノシシの目撃効率 (H29)



出典：第2期イノシシ管理計画（資料編）

県内の発電所 (50kW以上)

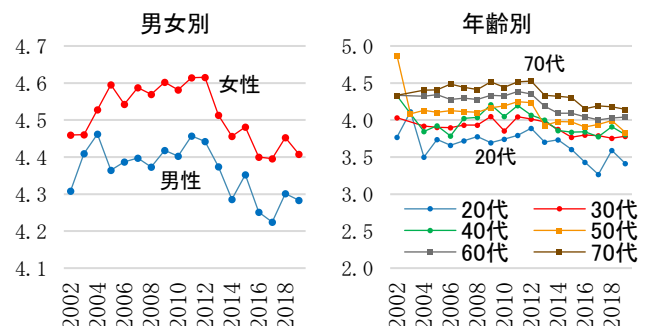


出典：国立情報学研究所 北本研究室作成

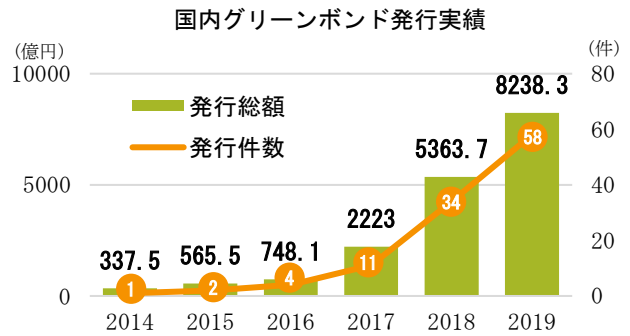
将来像 8 低炭素で資源を生かす先進地をつくる

- ・ごみの分別やリサイクル、節電に関する質問は全県平均が 4 点を上回り、県民の取組の定着がうかがえる。現在、点数が低い男性、若年層への啓発に取り組む必要がある。
- ・今後、発生抑制のさらなる徹底や、海洋プラスチック問題など新たな課題への対応が求められる。

ごみの分別やリサイクルに取り組んでいるか



・再生可能エネルギーの利用については、地域差はほとんどなく2点台半ばにとどまっている。住宅への太陽光発電設備の設置促進のほか、燃料電池（エネファーム）や蓄電池の設置、高断熱化や省エネ機器の導入などにより、さらなる住宅の省エネ化を図る必要がある。さらには、EVやFCVの普及促進、今後拡大が見込まれるグリーンボンド※への投資促進など、地域全体で低炭素社会の構築に向けた取組を進める必要がある。



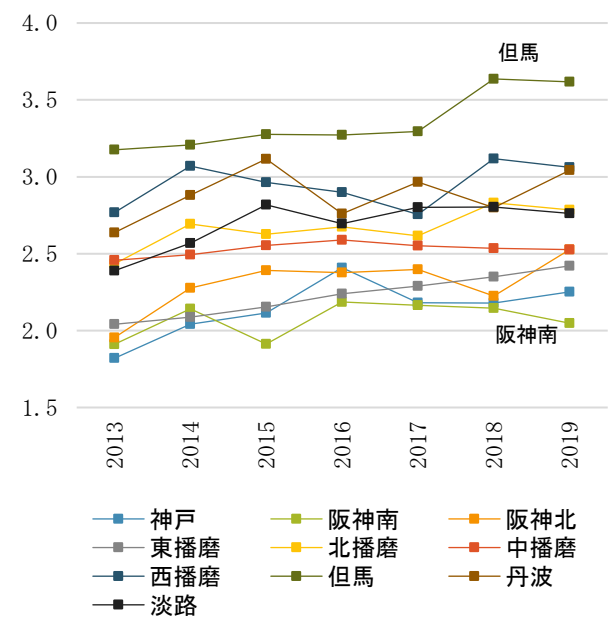
出典：環境省グリーンボンド発行促進プラットフォームHP

※企業や自治体が温暖化対策や環境保全に要する資金を調達するために発行する債券

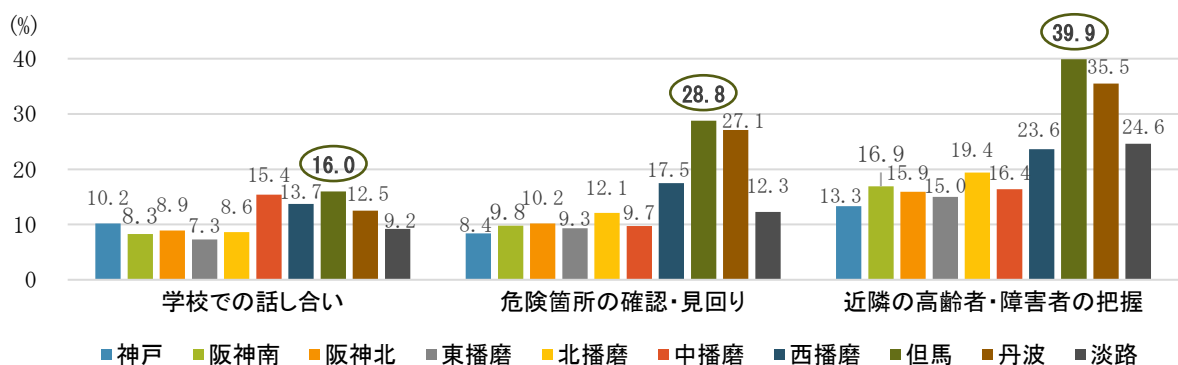
将来像 9 災害に強い安全安心な基盤を整える

- ・避難場所と避難方法を知っているか問う設問では、現在の質問文で調査を開始した2013年の3.48から直近の2019年は3.77と一貫して上昇している。
- ・災害に備えた話し合いや訓練の参加では多自然地域の点数が高く、都市部が低い傾向にあり、最高の但馬と最低の阪神南では1.3ポイントの開きがある。これは、設問4・5「頼りになる知り合いが近所にいるか」「地域で異なる世代の人とのつきあいがあるか」での傾向とも符合し、地域コミュニティの強さとの関連性が視える。
- ・県がH23に実施した防災に関する調査では「学校での災害時の児童の避難についての話し合い」「地域内の危険箇所の確認や見回り」「近隣の高齢者や障害者の把握」の全てで但馬が最も高い点数であった。こうした地域の継続した取組が、結果として防災意識の向上に重要であるといえる。

地域で災害に備えた話し合いや訓練に参加しているか



防災に対する取組 (Disaster Preparedness Measures)



出典：第17回県民意識調査「災害に対する意識と防災対策への期待について」(H22)

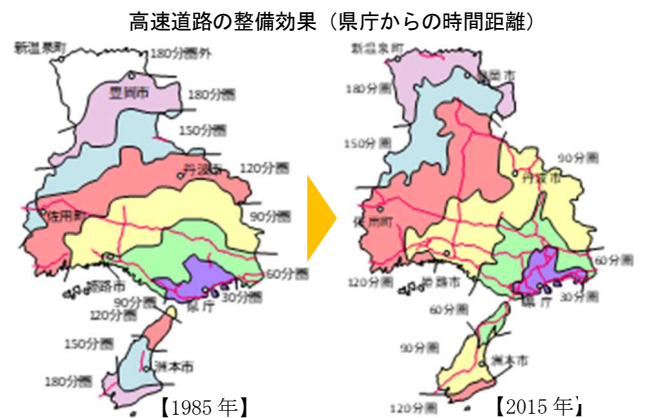
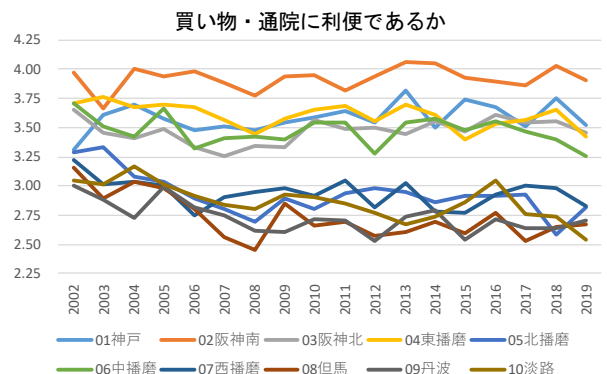
IV 多彩な交流社会

◆ 県民意識の傾向

- ・道路整備を計画的に進めてきており、地方部で「どこへでも便利に移動できる」の評価が改善傾向にあるが、交通の利便性については、都市部と地方部の間に依然大きな差がある。
- ・県民の地域への愛着度、関心度は総じて高い水準にあるが、地域活動への参加度合いは、日常的なつきあいの濃淡によるものか、圧倒的に地方部が高く、都市部と大きな差がある。利便性や繋がりなどの地域間格差を踏まえ、都市・地方の暮らし方を再構築しなければならない。
- ・若者の海外志向の低下が確認できる。世界の同時化が進行するなか、若者の外向き志向をいかにして高めるかも今後考えていく必要がある。

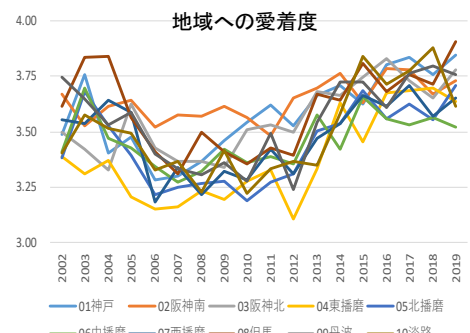
将来像 10 地域の交流・持続を支える基盤を整える

- ・兵庫県内の基本的な生活利便性に対する評価は、県内で二分されており、都市部（神戸、阪神南、阪神北、東播磨、中播磨）で高く、地方部（北播磨、西播磨、但馬、丹波、淡路）で低い。
- ・地方部では「買い物・通院の利便性」や「公共交通の利用のしやすさ」への評価がますます低下傾向にある。人口減少により維持が難しくなった店舗やバス路線の縮小・廃止などで利便性が低下し、それがさらに人口減少の要因になるという悪循環が起こっている。
- ・「どこへでも便利に移動できる」という観点の評価では、地方部で改善傾向が見られる。特に但馬と丹波の改善が顕著である。県北部を中心に高速道路の整備を進めてきた成果が表れている。ただ、それでも、都市部と地方部の評価が大きく高低に二分される状況に変わりはない。
- ・「街並みのきれいさ」の評価は、ほぼ変化がない。地域別には、神戸、阪神南、阪神北で高く、東播磨、北播磨、淡路で低い傾向がある。県民緑税を活用した街並み緑化など現行の景観形成の取組と、面的に「きれい」と県民に感じさせるために必要な取組の間に、大きなギャップがあるのではないかと。



将来像 11 個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す

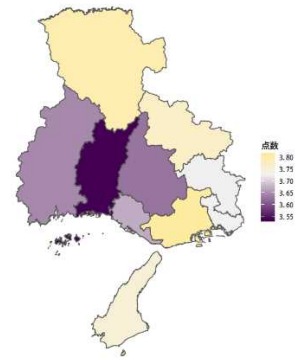
- ・兵庫県民の地域への愛着度は総じて高く（平均 3.52）、また近年上昇傾向にある。同様に地域への関心度も高い水準を保っており（平均 3.78）、地元意識の強さが伝わってくる。
- ・興味深いのは、地域への愛着度、関心度の地域差である。いづれも播磨地域が低い。姫路という歴史ある拠点都市を有しながら、自らの地域に愛着や誇りを持ってないのはなぜか。



東西交通で結ばれた東方の大都市に目が向くためであろうか。

- ・地域への愛着を育む元になる「自慢できる地域の宝」があるとする県民の割合は、世界遺産「姫路城」を擁する中播磨が突出して高い。ただ、東、北、西播磨は、逆にこの割合が低く、姫路城が共有の財産として認知されていない面があることを窺わせる。また、中播磨は「自慢できる地域の宝」がある県民の割合の高さと、地域への愛着度、関心度の低さのギャップが目を引く。
- ・地域活動に参加している住民の割合は、圧倒的に地方部が高く、都市部と大きな差がある。地縁の結びつきが根強く残っていることの表れか。投票率の高低とも似た傾向を示している。
- ・一方で、地域活動への参加「意向」を見ると、地方部が高く、都市部が低い傾向はあるものの、実際の参加状況ほどの差は見られない。都市部では、活動への参加意向を持つ住民が一定存在するにもかかわらず、どうやって地域に関わればよいのかがわからず、その手前で立ち止まっている住民が多いことが窺われる。

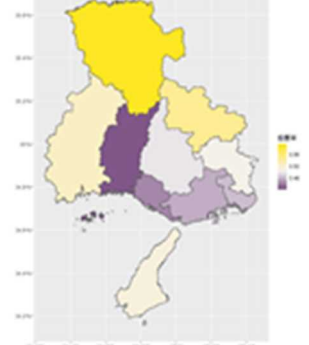
地域に愛着や誇りを感じるか



地域活動に参加しているか
又は参加したいか



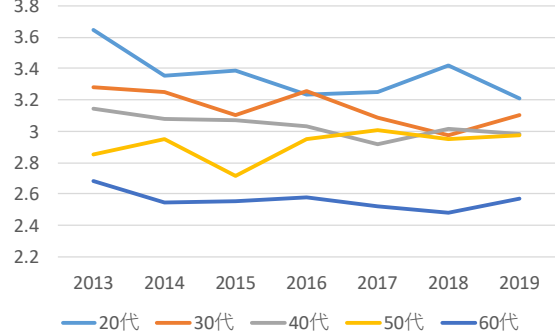
投票率
(2019年参議院議員選挙)



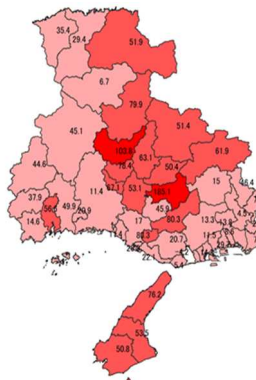
将来像 12 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ

- ・外国人観光客に加え、国内の人出不足を背景に、外国人就労者も増加の一途にある。外国人を見かけたり、外国人と接したりする機会は、今後ますます増えていくだろう。
- ・外国人と接する機会は増えているが、海外に行きたいと考える県民は増えていない。若者の内向き志向が強まっていると言われるが、ここでも20代、30代の海外志向の低下が確認できる。ICTの発展で世界の同時化が進み、あえて出かける必要性が低下したためか。近年力を入れている英語教育に合わせて、世界へ飛び立つ若者をいかにして増やしていくかも今後考えていく必要がある。
- ・外国人が住みやすい地域かどうかは、外国人に聞くべきことではあるが、県民の感覚としても、外国人にとっての住みやすさが高まっているとは言えない状況である。また、外国人の住みやすさには地域差があり、地方部で低い。今後都市部だけでなく地方部でもますます外国人県民、外国人旅行者が増えると見込まれ、外国人が快適に安心して過ごせる環境をハード、ソフトの両面から整えていく必要がある。

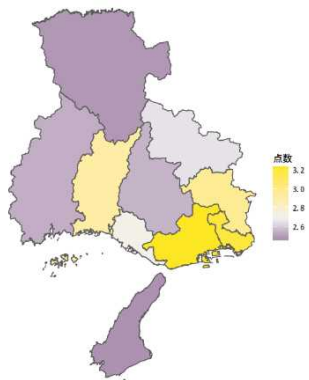
海外に出かけたり、海外で生活をしてみたいか



外国人県民の増加率
(2014~19年)



外国人が住みやすいと感じるか

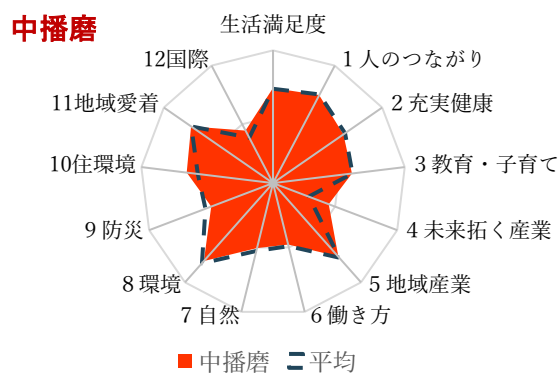
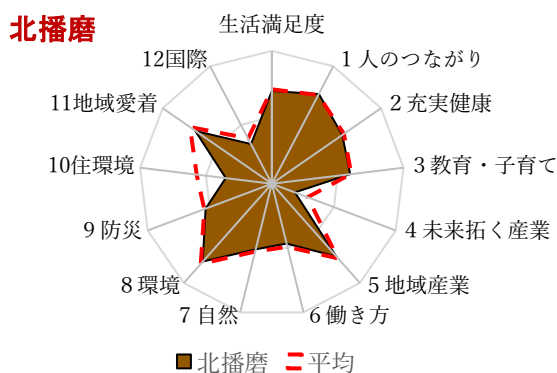
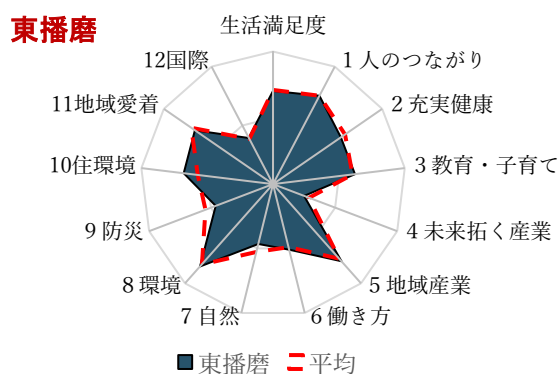
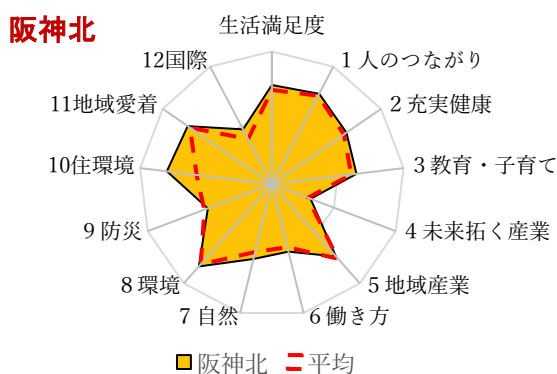
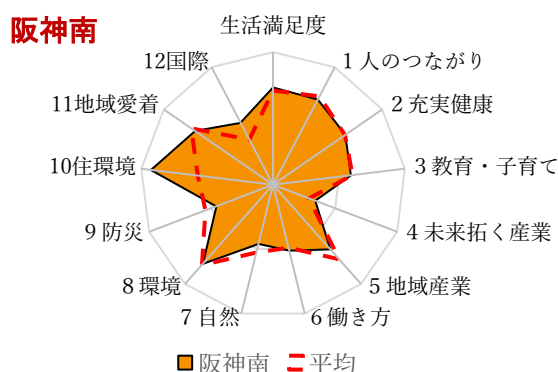
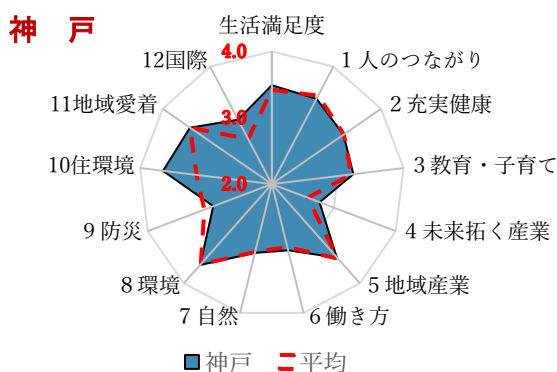


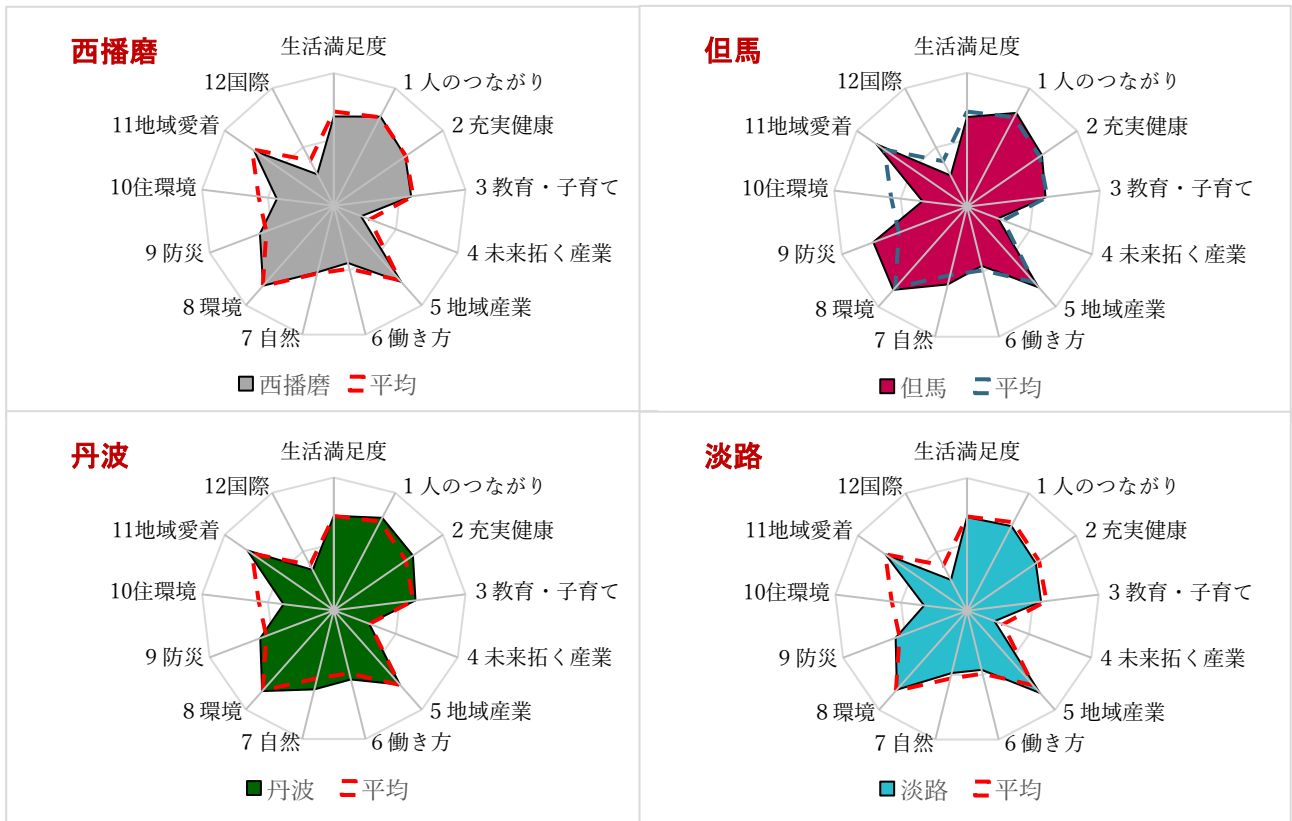
地域別レーダーチャート

地域・将来像別の傾向 ※直近3年間を平均。目盛ラベルは中心が2点、外周が4点。点線は全県の平均値

◆ 県民意識の傾向

- ・地域間の差が大きな将来像として挙げられるのが、「10住環境」「12国際」「4未来を拓く産業」の分野。とりわけ、生活利便性を含む住環境の分野は、神戸、阪神南、阪神北など都市部と北播磨、但馬、淡路など地方部の格差は、他の将来像と比較して突出している。
- ・一方で、総合的な「生活満足度」において、地域格差は小さい。利便性や産業活力への意識と全体の満足度の間に、強い関連が見られなかったことは意外な結果であった。おそらく、単に生活満足度を問われた時には、極めて身近な世界での暮らしの質や充実感をイメージするため、一定以上の生活の質が確保された日本では差が生じないのではないかと。
- ・しかしながら、人口の移動が利便性や産業・雇用などに連動するように、本調査における「10住環境」や「4未来を拓く産業」といった分野は、ある意味で別の総合的な満足度と捉えても良いかもしれない。そうした分野に相当程度の格差が生じていることが、本調査からも明らかであり、新たな方向性を考えていかなければならない。





主な将来像ごとの集計値 ※地域別レーダーチャートの集計値を将来像ごとに再整理。世代別も記載

00総合満足度

	01神戸	02阪神南	03阪神北	04東播磨	05北播磨	06中播磨	07西播磨	08但馬	09丹波	10淡路	世代順位
全世代	3.49	3.47	3.49	3.41	3.40	3.43	3.35	3.34	3.42	3.41	-
20代	3.54	3.64	3.47	3.31	3.19	3.15	3.09	3.24	3.18	3.02	6
30代	3.51	3.49	3.54	3.38	3.27	3.39	3.21	3.27	3.33	3.27	4
40代	3.44	3.41	3.30	3.30	3.12	3.21	3.20	3.11	3.19	3.33	7
50代	3.32	3.35	3.32	3.33	3.18	3.46	3.11	3.17	3.36	3.25	5
60代	3.45	3.46	3.59	3.47	3.47	3.47	3.40	3.43	3.37	3.38	3
70代	3.57	3.42	3.67	3.49	3.58	3.66	3.59	3.42	3.62	3.58	2
80代	3.71	3.73	3.66	3.48	3.72	3.53	3.57	3.51	3.66	3.74	1
地域順位	2	3	1	5	8	4	9	10	6	7	-

04未来を拓く産業の力

	01神戸	02阪神南	03阪神北	04東播磨	05北播磨	06中播磨	07西播磨	08但馬	09丹波	10淡路	世代順位
全世代	2.77	2.68	2.62	2.50	2.37	2.90	2.44	2.50	2.57	2.44	-
20代	3.03	2.73	2.88	2.39	2.29	2.96	2.56	2.35	2.46	2.39	2
30代	2.99	2.79	2.57	2.55	2.32	3.03	2.43	2.50	2.46	2.45	1
40代	2.81	2.75	2.48	2.41	2.25	2.92	2.48	2.52	2.52	2.49	7
50代	2.62	2.67	2.63	2.60	2.36	3.10	2.45	2.53	2.47	2.36	4
60代	2.78	2.65	2.64	2.51	2.42	2.83	2.44	2.46	2.53	2.45	6
70代	2.64	2.58	2.66	2.54	2.40	2.76	2.38	2.59	2.72	2.46	5
80代	2.78	2.66	2.72	2.42	2.47	2.73	2.44	2.46	2.69	2.45	3
地域順位	2	3	4	6	10	1	8	7	5	9	-

10地域の交流・持続を支える基盤を整える（住環境）

	01神戸	02阪神南	03阪神北	04東播磨	05北播磨	06中播磨	07西播磨	08但馬	09丹波	10淡路	世代順位
全世代	3.65	3.86	3.59	3.36	2.70	3.31	2.87	2.67	2.76	2.65	-
20代	3.62	4.08	3.71	3.37	2.53	3.32	2.90	2.37	2.57	2.42	5
30代	3.80	3.87	3.62	3.40	2.72	3.46	2.79	2.58	2.68	2.54	3
40代	3.71	3.79	3.41	3.24	2.54	3.25	2.93	2.40	2.64	2.58	7
50代	3.50	3.87	3.63	3.26	2.59	3.51	2.78	2.53	2.63	2.51	6
60代	3.63	3.75	3.69	3.46	2.71	3.25	2.83	2.79	2.68	2.61	4
70代	3.70	3.91	3.59	3.43	2.83	3.24	2.92	2.79	3.02	2.83	1
80代	3.59	3.90	3.67	3.23	2.84	3.19	2.94	2.82	2.91	2.88	2
地域順位	2	1	3	4	8	5	6	10	7	9	-

1 都市・地方の暮らし方の再構築（モビリティ・通信技術の発展の先にある暮らし方）

① 住環境・利便性の格差 × 住み続けたい地域・地域への愛着

- ◆ 都市への人口移動は進んでいるか。まちや地域（都市中心部、ニュータウン、地方都市、多自然地域）はどのような姿になっているか。また、まちや地域の姿はどうあるべきか。
- ◆ 社会インフラ（道路・鉄道・港湾・空港等の産業・交通基盤、上下水道、公園・学校等の生活基盤など）はどうなっているか。機能の維持・向上には何が必要か。

② 都市部のコミュニティ機能の低下 × 地方の子育て環境への不安

- ◆ コミュニティや家族の形はどうなっているか。機能・役割はどのように変化するか。

2 A I 時代の稼ぎ方と人材育成の展望

① 産業・雇用環境への厳しい認識 × 起業・創業へのハードル

- ◆ 産業構造はどう変化しているか。その中で県及び各地域は、何を強みとし、何で稼いでいるか。AI等のテクノロジーの進歩は、暮らしや社会、産業をどうかえているか。

② 若者の希望を描く × 「学び」への意識と環境格差

- ◆ どんな人材が必要とされているか。そうした人材が育つためにどのような学びが必要か。学校はどう変わっているか。高度な知識と心の豊かさをどう両立して育んでいくのか。

③ 海外志向の低下 × 地域国際化の必要性

- ◆ 地域や国境を越えた人の交流はどうなっているか。その中で県及び各地域は、何を強みとして人を引き付けるのか。世界の活力の取り込みや世界への貢献のために何が求められるか。

3 人生 100 年時代のライフコースの提示

① 将来の不透明感（働き方、社会保障、格差、技術革新）→ 安心やビジョン提示の必要性

- ◆ 人生 100 年時代の個人のライフコースはどう変わっていくのか。人の幸せや生き方など価値観が如何に変わっていくか。
- ◆ 働き方（働く人と企業の関係、働くスタイル等）は、どのように変わっていくのか。働き方の変化は、社会や地域にどんな影響を与えているのか。

4 巨大災害や気候変動への対応

① 防災意識の高まり × 住み続けたい地域

- ◆ 南海トラフ地震にいかに対応していくか。南海トラフ後の兵庫はどうなっているか。どうあるべきか。

② まばらな環境保全意識 × 進まない再エネ導入

- ◆ 気候変動は、人の暮らしや地域、産業にどんな影響をもたらしているか。地球温暖化を防ぐために何が必要か。エネルギーはどうなっているか。
- ◆ 人と自然の共生に向けて何が求められるか。森林・海洋の環境はどう変化しているか。